

2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第3戦 鈴鹿サンデーロードレース RACE REPORT

■開催概要

- シリーズ名称 ; MFJ公認・承認 2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第3戦 鈴鹿サンデーロードレース
- 主催 ; 株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット
- 会場 ; 鈴鹿サーキット国際レーシングコース・フルコース (2輪/2.243km)
- 参加台数 ; 総参加台数/194台

インターJP250	1台
ナショナルJP250	14台
インターST600	11台
ナショナルST600	26台
CBR250RR Dream Cup	25台
インターJSB1000	19台
インターST1000	12台
ナショナルST1000	25台
インターJ-GP3	8台 (NSF250R.....2台)
ナショナルJ-GP3	15台 (NSF250R.....7台)
ST600R (Revival)	18台
CBR250R Dream Cupエキスパートクラス	20台
- 開催日 ; 2020年7月5日 (日)
- 天候/路面 ; 曇り/ハーフウェット→ドライ

★次回レース予定

2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 鈴鹿サンデーロードレース

■開催日/2020年9月20日 (日)

■会場/鈴鹿サーキット国際レーシングコース・東コース (2輪/2.243km)

■開催クラス/ インターJSB1000、インター・ナショナル/ST1000・ST600・J-GP3・JP250

ST600R (Revival)、CBR250R Dream Cupエキスパートクラス、CBR250RR Dream Cup

■主催/株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。

リザルトページ https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。

バトルファクトリーHP <https://www.battle.co.jp/>



新設された「ST1000」など、見どころが多い 2020年シーズンの鈴鹿サンデーロードレース。 第3戦から本格的にシーズンがスタート!

国内外における新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催が中止となった2020年シーズン鈴鹿サンデーロードレースの開幕戦と第2戦。第2戦ではJP250による4時間耐久レースや鈴鹿8耐への参戦チームを選抜する「8耐トライアウトFINALステージ」も開催される予定だったが、それらも中止となった。そして7月5日(日)、実質的な今シーズンの開幕戦となる鈴鹿サンデー第3戦が開催された。

入場ゲートにおける検温の実施、パドックへの入場などのマナーの徹底、レース参戦者に限定した場内ではマスクの着用やソーシャルディスタンスを確保することなど、考える感染予防対策を講じて開催したこの第3戦の見どころと言えば、新設された「ST1000」カテゴリーのレースが初めて行われたこと。このカテゴリーの対象マシンは基本的にJSB1000と同じくオーバー300km/hを実現するリッタースーパースポーツだが、「ストック」の名の通り、マシンの改造範囲が厳しく制限されることに加え、ダンロップタイヤのワンメイクで行われるなど、より一層のイコールコンディションが保たれる。そのため開催前から激しいバトルが展開されることが予想された。その予想通り、公式予選から早くも白熱したタイムアタックが披露された。混走となるインターJSB1000/ST1000では、ST1000の中村修一郎がJSB1000勢を抑えてポールポジションを獲得。決勝でも中村が単独状態となり、そのままトップチェッカーを受けた。一方、ナショナルJSB1000に代わる形で新設されたナショナルST1000では、ST600R(Revival)の昨シーズンチャンピオンである前迫祥平が予選2番手タイムをマークした。

また、今回は梅雨の時期に開催されたこともあり、今にも雨が降り出しそうな曇天のもとで行われた。当日は朝まで雨が降っていたため、ウェットパッチが残る状態からスタート。レドクロスが出されるタイミングもあった予選ではいつもの上位ランカーとは違うライダーが好タイムをマークし、上位グリッドを獲得するカテゴリーがあった。季節柄、決勝スタート直前に再び雨が降りはじめたカテゴリーも見られ、目の離せない見ごたえのあるレースが多い一日になった。

残すところ、今シーズンは9月20日(日)の第4戦と11月21日(土)・22日(日)に前倒しされた第56回NGKスパークプラグ杯鈴鹿サンデー最終戦の2戦が行われる。さわやかな秋風が吹くであろう第4戦にも是非注目していただきたい。



今シーズンより新設された「ST1000」クラスのナショナルST1000決勝レース直前シーン。ポールポジションは目代 祐紀

■インター／ナショナルJP250

ポールポジションスタートの安田毅史と2番グリッドスタートの福井宏至が横並びの状態で1コーナーへ。安田、福井、5番グリッドスタートの南博之のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。福井が2周目にトップに浮上。安田の後方を桐石世奈が走行する。序盤から福井と安田の2台がテールtoノーズのバトルを展開。桐石の背後に接近した梶山采千夏が桐石をパス。そのバトルの間も福井と安田は抜きつ抜かれつの接戦を披露する。梶山が桐石を引き離して単独3位に。安田がトップチェッカーを受けたが、参戦台数が1台のインターJP250はレース不成立。総合2位でチェッカーを受けた福井がナショナルJP250のウィナーに輝いた。

※インターJP250クラスはレース不成立



ナショナルJP250表彰式 (優勝:福井宏至、2位:梶山采千夏、3位:桐石世奈)

■インターST600

ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの伊達悠太。その伊達が1コーナーでオーバーランして4位あたりまで脱落する。代わりにトップに立ったのは4番グリッドスタートの酒井隆嗣。酒井、5番グリッドスタートの鈴木翔、7番グリッドスタートの松永修、伊達のオーダーでオープニングラップを終了する。鈴木と酒井を立て続けにパスした松永が3周目にトップに。松永は後続とのアドバンテージを広げ続ける。伊達が徐々に松永の背後に接近。伊達に並ばれた松永は7周目の最終コーナーで転倒してしまう。伊達がトップチェッカーを受けたが、伊達は走行中の遵守事項違反のため失格。羽根巧がウィナーとなった。



インターST600表彰式 (優勝:羽根巧、2位:門馬巧実、3位:酒井隆嗣)

■ナショナルST600

ポールポジションスタートの屋代原野が絶妙なクラッチミートを披露してホールショットを奪う。屋代はオープニングラップから早くも後続を引き離すことに成功。それに2番グリッドスタートの角田祐介が続く。予選のタイム差がない屋代と角田はテールtoノーズのバトルを展開。5周目のメインストレートで角田が屋代をパスする。その後方では可部谷雄矢、大中真次、荒金祐亮ら5台が3位の座を争う。12番グリッドスタートの岡田秀之が3位グループに加わると、7周目には4位に浮上。同じく7周目に屋代が角田をパスして再びトップに立つ。岡田は9周目に3位に。結局、屋代がポールtoウィン。2位は角田。岡田が3位でチェッカーを受けた。



ナショナルST600表彰式 (優勝:屋代原野、2位:角田祐介、3位:岡田秀之)

■ST600R (Revival)

ポールポジションスタートの小松孝章が良いクラッチミートを披露すると、ホールショットをゲット。小松がトップのままオープニングラップを終了する。それに続くのは2番グリッドスタートの谷村尚彦。さらに3列目9番グリッドスタートの早川貴務と続く。3周目の2コーナー立ち上がりで谷村が小松をパス。谷村の背後で小松、早川、長尾俊輔、井上正光、山下尚紀の5台が2位争いを展開する。8周目になると谷村、小松、早川、長尾、井上、山下はそれぞれ独走状態に。10周が終了する頃、谷村は小松以降に1秒5ほどのアドバンテージを築くことに成功する。結局2秒039のアドバンテージを築いた谷村がトップチェッカーを受けた。



ST600R (Revival) 表彰式 (優勝:谷村尚彦、2位:小松孝章、3位:早川俊務)

■CBR250R Dream Cupエキスパートクラス

ポールポジションスタートの藤村太磯が良いクラッチミートを披露。2番グリッドスタートの福井宏至が出遅れる。藤村、3番グリッドスタートの折川翔馬のオーダーでS字に突入していくが、福井が折川をパス。藤村、福井、折川とグリッドのオーダー通りにオープニングラップを帰ってくる。福井が2周目に藤村をパスしてトップに。しかしすぐに藤村がトップに返り咲く。折川もスリップストリームを使って福井の背後を走行する。その後も藤村、福井、折川はテールtoノーズのバトルを展開。その後方で花田定夫と渡辺維吹がトップスリーの動向をうかがう。終盤にトップグループは5台での争いに。福井がトップチェッカーを受けた。



CBR250R Dream Cupエキスパートクラス表彰式 (優勝:福井宏至、2位:折川翔馬、3位:藤村太磯)

■CBR250RR Dream Cup

ポールポジションスタートの田中直哉がホールショットを奪うと、頭ひとつ抜け出すことに成功。それに2番グリッドスタートの森真が続く。3番グリッドスタートの鈴木克正が森と田中にプレッシャーをかけると、その鈴木が2周目に森をパス。田中、鈴木、森ら5台によるトップグループの若干背後で竹田透と前田晃治の2台が6位グループを形成する。4周目にその時点のファステストラップをマークした中川涼が3位に浮上。5周目のメインストレートでは森が田中をパスしてトップに。しかし田中がすぐトップに返り咲く。中川は森と田中のトップグループに接近していくと、森をもパス。2位以降を引き離れた田中がトップチェッカーを受けた。



CBR250RR Dream Cup表彰式 (優勝:田中直哉、2位:中川涼、3位:森真)

■インターJSB1000／ST1000

5番グリッドスタートの中島陽向が良いクラッチミートを披露。ポールポジションスタートの中村修一郎、中島のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。その2台に続くのは2番グリッドスタートの黒木玲徳。岸田尊陽が4位で続く。中村が単独トップに。中島、黒木も単独2位、単独3位となる。黒木が徐々に中島の背後に接近すると、中島、黒木はテールtoノーズの状態に。安田毅史が単独4位を走行する。中島以降に7秒196のアドバンテージを築いてファイナルラップに突入した中村がポールtoウィン。初開催のST1000勢がJSB1000勢を抑えてワンツーフィニッシュを果たす結果となった。JSB1000のウィナーは総合3位の黒木だった。



インターJSB1000表彰式 (優勝:黒木玲徳、2位:安田毅史、3位:田尻悠人)



インターST1000表彰式 (優勝:中村修一郎、2位:中島陽向、3位:岸田尊陽)

■ナショナルST1000

4番グリッドスタートの花村峻一がホールショットをゲット。しかし、ポールポジションスタートの目代祐紀がトップに立つと、目代はすぐに頭ひとつ抜け出すことに成功する。目代、花村、2番グリッドスタートの前迫祥平のオーダーでオープニングラップを終了。2周目の1コーナーで前迫が花村をパスして2位になるが、その前迫が単独の転倒。これにより喜田優人が花村に続く3位に浮上する。目代、花村、喜田はそれぞれ少しずつ離れてトップワン・ツー・スリーを走行。池主永が単独4位を走行する。9周目になると目代、花村、喜田、池主の4台が接近。目代は再びペースアップをはかる。結局、目代がポールtoウィンを飾る結果となった。



ナショナルST1000表彰式 (優勝:目代祐紀、2位:花村峻一、3位:喜田優人)

■インター／ナショナルJ-GP3／
HRC NSF250R Challenge

3番グリッドスタートの鈴木大空翔がホールショットを奪う。それに続くのは4番グリッドスタートの大庭飛輝。鈴木、大庭、2番グリッドスタートの江澤伸哉、ポールポジションスタートの渡邊虎太郎のオーダーでオープニングラップを終了する。2周目に渡邊が江澤をパス。鈴木と大庭が渡邊以降を引き離すことに成功する。渡邊、江澤はサイドbyサイドの状態4周目に突入。鈴木が5周目に大庭を引き離す好走を披露したことにより、鈴木、大庭は単独トップ、単独2位に。その間も江澤と渡邊は3位の座を争う。鈴木がトップチェッカーを受けると同時にインターJ-GP3ウィナーに。総合5位の山本航がナショナルJ-GP3を制した。



インターJ-GP3表彰式 (優勝:鈴木大空翔、2位:大庭飛輝、3位:江澤伸哉)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝:山本航、2位:塚本武蔵、3位:高橋直輝)



HRC NSF250R Challenge表彰式 (優勝:江澤伸哉、2位:山本航、3位:高橋直輝)

Voice
of
Pick up
Riders
-SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光った
ライダーに―問―答

この日、キラリと光ったライダーに―問―答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

ナショナルST600クラスで優勝した

屋代 原野 選手(26歳)

(浜松チームタイタン/スズキGSX-R600)



Q.タイムが接近した公式予選でしたね。なにか作戦はありましたか？

A.2コーナーと3コーナーがポイントだと考えていたので、そこをミスなく走ることを心がけました。2コーナーをうまく立ち上がれるように1コーナーを走り、3コーナーへとつなげるように組み立てて走ったら目標としていたタイムを出すことができました。

Q.ファイナルラップまで接戦が続いた決勝レースでしたね。

A.メインストレートで何度か並ばれ、プレッシャーを感じました。ストレートスピードが不利だとわかっていたので、1コーナーのハードブレーキングで勝負しました。ポールtoウィンを飾ることができて良かったです。

Q.GSX-R600がレースで勝つことは久しぶり。しかも屋代選手のマシンは2011年式と9年前のモデルです。

A.フレームが強く、スタビリティがあるマシンであることはよく知っています。ストレートスピードで劣ってもブレーキングでは勝てるので1コーナーの進入に賭けていました。今シーズンは鈴鹿サンデーにフル参戦します。残る2戦でもポールtoウィンを狙いたいです。